アズマシオンだより　NO１

青森アニマシオンクラブ（２０１８．２）

こんにちは。今年の冬はとても寒くて春が待ち遠しいこの頃です。大雪ではなく、現在の積雪量は１メートルもありません。でも道路脇に積まれた雪は２メートル以上。気温が氷点下 14℃になったり、最高気温が氷点下という真冬日が何日も続き、最高気温がプラスになってほしいと願っています。あと少しでしょうか？

青森アニマシオンクラブは２００８年９月に五所川原市で発足しました。五所川原市はお隣の金木町と合併したので、今では太宰治の故郷ということになっています。

「アニマシオン」と方言の「あずましい」（心地良い状態）を合体させて、アズマシオンクラブと命名して下さったのは、岩辺代表です！

発足当初から、下記の３つの約束を作りました。

① 毎月、第４土曜日を例会とする。
② アニマシオンの授業をして例会に実践を持ち寄る。
③ 毎月、会報を発行し、持ち寄った実践を資料として会員に配布する。（若松由花事務局長、がんばる！）

②に関して

最初のころは１冊の絵本を決めて、その本でそれぞれがアニマシオンの授業を実践していました。今は、４月の総会に年間の月毎のテーマを決めて、テーマに沿ってそれぞれが本を選び実践することにしています。年間のテーマを決めてというのは、東京のやり方をまねたものですが、ファンタジスタを拝見すると、東京では例会の際に担当者が練った案で皆さんが参加をなさって実践されていますね。私たちはなかなか複数で研究する時間が確保できず、例会の参加者も少ないので、個人の努力に委ねているという現状なので、かなり無理があり、なかなか実践者が広がらない困難さがあります。

例会の会場は、五所川原市の老舗書店の喫茶コーナーでした。が、閉店したので、現在は市立図書館を会場に借りています。五所川原市だけではなく、年に１，２回は青森市や十和田市会場でも開催しています。

会員の多くが小学校の教員で、授業実践はできるのですが、青森県の小学校も、御多分に漏れずなんともすさまじい忙しさや様々な問題を抱えているため、例会に参加できる人数がどんどん減っているのが目下の悩みです。実践はしていなくても参加してくれるだけでとっても嬉しいのです。何といっても、資料として配布される物を読むだけよりも、実際に話を聞いた方が何倍も理解しやすいのです。最近は一桁の参加人数が続いていますが、不思議と実践がなくなることはありません。

２月のテーマ　「新聞 de アニマシオン」

最近は毎年、この時期に定着しているテーマです。今月は４本の実践がありました。

１人で２つの実践。１年生が２つ。１年生はまず新聞を読む以前の、折ったり、包んだり、破いたりという工作から入ります。次にカタカナの単語を探したりします。ほかほかのオリンピックのメダリストにも視点をあてました。３年生は青森県の、４年生は 47 都道府県の記事探し。以下、３・４年の実践を紹介します。

（佐々木あさ子）

こどもだってしんぶんをたのしむのだ

2018.2.24　青森市立東陽小　　大賀　重樹

【発見！　まるごと　青森県】

【対　象】３年生（１６名）
【時　間】４５分
【準備物】個　　人＝　・はさみ　　・のり　・マジック　・付箋
　　グループ＝　・青森県白地図が貼ってある模造紙　・新聞三日分
【ねらい】新聞をスクラップすることを通して、新聞に親しむ。
【方　法】

①黒板に「発見！まるごと青森県」と書き、今日のめあてを知らせる。
②青森県の白地図が貼ってある模造紙を掲示し、三日分の新聞に青森県のうちいくつの市町村の記事が載っているか予想させる。
③４～５人のグループに分かれて、しんぶんを切り抜き模造紙に張っていく。
④記事を張った市町村をマジックでぬり、記事と市町村を線で結ぶ。
⑤１５分くらいたったら、互いのグループの様子を見合う。
⑥作業に戻り、さらに１５分後、教師が模造紙を黒板に掲示し、グループごとの成果を確かめる。
⑦感想を付箋に貼り、意見交換をする。

【子どもたちの感想】
・青森には、いろんなところがあるんだなと思いました。読み方もいろいろあってすごかったです。たくさん見つけられてよかったです。ほかのところも知りたいです。もっと見つけたいです。
・青森市やむつ市を見つけられてよかったです。ライトアップの記事がいっぱいあってびっくりしました。たくさん見つけられてよかったです。
・いろいろな場所がありました。はれていない場所もあるけど、わたしたちは１４まいはれました。
　でも、ほかのチームは１５まいはっていました。次はもっとはりたいです。

【反省と考察】
・記事をじっくり読む時間はなかったが、取り組めていた。ただ、市町村名がまだ覚えられていない児童も多かったので、支援が必要だった。

【二日間で　全国制は】

【対　象】４年生（１６名）
【時　間】４５分
【準備物】個　　人＝　・はさみ　　・のり　・マジック　・付箋
　　グループ＝　・日本の都道府県白地図が貼ってあるラシャ紙　・新聞二日分
【ねらい】新聞をスクラップすることを通して、都道府県の様々なニュースを知る。
【方　法】

①黒板に「二日間で　全国制は」と書き、今日のめあてを知らせる。
②日本の都道府県白地図が貼ってあるラシャ紙を掲示し、二日分の新聞にいくつの都道府県の記事が載っているか予想させる。
③３～４人のグループに分かれて、記事を切り抜き、ラシャ紙に張っていく。
④記事を張った市町村をマジックでぬり、記事と都道府県を線で結ぶ。
⑤３０分で業を終了し、全体でグループごとの成果を確かめる。
⑦感想を付箋に貼り、意見交換をする。

【子どもたちの感想】
・青森県の記事がたくさんあったので大変でした。「〇〇県ある？」とか友達が聞いてきたのでさがすのも大変でした。でも、いろんな記事をさがせたので、楽しかったです。
・わたしはだいたい６こ見つけることができました。新聞には４７都道府県なると思ったけど、全然ありませんでした。楽しかったです。
・やってみたらできたのでびっくりしました。県名でなく市町村名で出てきたのでおぼえたいです。
　楽しくできたのでよかったです。

【反省と考察】
・東奥日報の「まるごと青森県」の記事集めは、とても時間がかかるので、１単位時間でできるものを考えやってみた。４年生になると、記事を切り抜きながら、内容も読む児童が出てくるので、質問も出てきて面白かった。
・できあがった日本地図を見ると、思った以上に日本各地の記事が集まっていた。
・新聞によっては、悲しい記事が多い日もあったので、事前に新聞の準備する段階で新聞を選んでいてよかった。

＊（大賀先生はNIEのアドバイザーとしてご活躍なさっています。）